

[調査報告]

# マウンティングの特徴について

## —ポライトネスの原理から—

市川 真未

### 要 旨

本稿では Twitter、ブログ、ドラマなどからマウンティングと意図された、またはそう捉えられた発話を取り上げ、その特徴を Leech(1983) の Politeness principle を用いて考察した。その結果、自身の優位性を示すことに重点を置いた明示的なマウンティングから、見せかけのポライトネスを見せつつ暗示的に攻撃するものまで幅広く存在することが分かった。また、参与者 B にとってデリケートな話題であると知りながらあえてその話題に触れる、ポライトな言語行動が期待されている場面で最大限に賞賛を行わない、感謝表明の代わりに不満表明をする、賞賛発話の中で否定語彙を使用するなどの特徴も見られた。

キーワード：マウンティング、発話機能、ポライトネス、FTA

### 1. はじめに

マウンティングというのは、本来動物が自分の優位性を知らしめるために敵に対して馬乗りになることをいうのだが、近年は「『自分の方が立場が上』と思いたくて、言葉や態度で自分の優位性を誇示してしまうこと」(瀧波・犬山 2014)として用いることのほうが多い。例えば以下のようなものをマウンティングとする。

- (1) 「えー!? でも私はユカリみたいに奥ゆかしいかんじにあこがれてるよ～。ユカリの  
“一人じゃ何もできない”って雰囲気、イイよね～。男の人がなんでもしてくれそう～。何でも自分でやっちゃう私のムダな行動力とかホント  
いらないし～」

「あこがれる、雰囲気がいい」などの肯定的語彙を用いた発話に「私のムダな行動力とかホントいらない」と否定語彙を用いた自己非難を後続させることにより一見、最大限に賞賛を行っているように見える。しかしながら、「男が何でもしてくれる」という発話は「男に頼ってばかりで、一人では何もできない女」だと非難されたと悲観的に捉える人も少なくない。さらに後続発話も「何でも自分でできちゃう私は行動力があってあなたとは違う」という解釈になる可能性も大いにある。たとえ参与者 A にマウンティング意図がなかったとしても、参与者 B に引っかけるところがあればマウンティングとして受け取られる可能性は高まる。実際に以下の (2) は、賞賛表現を用いているにもかかわらずマウンティングとして受け取られた例である。Twitter 上にはこれと同様の多くのマウンティング発話が存在する。

- (2) いつも合コンに誘ってくれる同じ歳の抜群に男受けするゆるふわ系女子。仲良いと思うんだけどさっき私の事を「凄い仕事出来るし面倒見いいし、明るいし本当いい女なんです♡何で離婚したんだろ…」って紹介してくれて、サラッとマウンティングされたよ 😊<sup>1</sup>

マウンティングという言葉は広く認知されるようになってきてはいるが、使用実態や形式を分析した研究はもちろん、マウンティングの機能や特徴やについて述べられているものも管見の限りない。そこで本稿では Twitter、ブログ、ドラマなどからマウンティングと意図された、またはそう捉えられた発話を取り上げ、マウンティングという発話機能の特徴を明らかにしていく。

## 2. 本研究の立場

マウンティングは「自分の方が立場が上」だということを誇示することを目的とするため、その方向性は参与者 A 自身を上にあげる場合と参与者 B を下に格付けする場合の 2 通りが考えられる。本稿では広義に解釈し、以下のような定義にしておく。

マウンティングの参与者 A が自尊心を満たすために、自身の優位性を明示・暗示的に参与者 B に伝える言語行為である。また、参与者 B が下に格付けされたと受け取った場合もこれに含める。

また、マウンティングには「お前は俺より下だから、俺の言うとおりにしろ。」などの明示的なものも、もちろんあるのだが、《賞賛》や《助言》、《羨望》、《報告要求》など、他の発話機能をみせかけとして用いながら、相手より優位に立っていることを暗に示すマウンティングの方がはるかに多い。これは「相手との人間関係を良好に保ちたいという意図がある」ことをアピールし、ポライトな姿勢を見せることにより、参与者 B からの反感を最小限にしつつ、参与者 A の「優位性を見せつけたい」という欲求を同時に満たす言語行動とも言える。この「みせかけのポライトな姿勢」と「優位に立ちたいという真の意図」をどのようなバランスで出すかでマウンティングを様々な種類に分類することが可能なのではないかと考えている。

そこで今回は他者に配慮し、相手の利益や負担を考えながら相手との関係をなるべく良好に保つための原則である Leech (1983) の Politeness principle を援用し、山岡ほか (2010) の発話機能の範疇を用いて、どういった見せかけの発話機能を用いているのか、また、どれだけ Leech の Politeness principle 反しているかという観点から用例を分析をしていきたい。文字数の制限があるため、今回は、山岡ほか (2010) の発話機能と Brown & Levinson (1987) の詳述は紙面の都合上割愛し、Politeness principle の 6 項目のみを紹介する。

気配りの原則 (tact maxim)

- (a) 他者の負担を最小限にせよ
- (b) 他者の利益を最大限にせよ

寛大性の原則 (generosity maxim)

- (a) 自己の利益を最小限にせよ
- (b) 自己の負担を最大限にせよ

是認の原則 (approbation maxim)

- (a) 他者への非難を最小限にせよ
- (b) 他者への賞賛を最大限にせよ

謙遜の原則 (modesty maxim)

- (a) 自己への賞賛を最小限にせよ
- (b) 自己への非難を最大限にせよ

一致の原則 (agreement maxim)

- (a) 自己と他者との意見相違を最小限にせよ
- (b) 自己と他者との意見一致を最大限にせよ

共感の原則 (sympathy maxim)

- |  |
|--|
| (a) 自己と他者との反感を最小限にせよ<br>(b) 自己と他者との共感を最大限にせよ |
|--|

(邦訳は山岡 2010 を参考にした)

### 3. 調査概要と結果

#### 3.1. 調査概要

調査目的：(i) マウンティングの対象とされるものにはどのようなものがあるかまとめる。

(ii) どのような見せかけの機能を用いているのか調査する。

(iii) ポライトネスの原理からどのように逸脱しているのか概観し、マウンティングになる発話の特徴を探る。

調査資料：Twitter、ブログ、コラム、ドラマ「ファーストクラス 1-10 話」、バラエティー番組「スカッと TV (フジテレビ系列)」

調査手順：① Twitter で「ってマウンティングされた」「ってマウンティングした」などの文字列を入力し、実際に発話された内容が明示されているものを収集する。ブログやコラムからも同様に収集する。

② テレビ番組からはマウンティング意図が明確なもの、またはされたと受け取っているものをデータとして収集する。

#### 3.2 調査結果

上記の手順で内容が明確に判断できる用例は 140 のみであった。収集データの数を増やすことは今後の課題とするが、少ないながらマウンティングの特徴としていくつかの傾向性は見られた。また、それぞれの特徴は 1 ターンに複数回現れることもあった。それらの特徴が 1 ターンに多く入っていれば入っているほど、マウンティングとしての色合いは濃くなっていくという傾向も見られた。

##### 3.2.1 自己への肯定的内容への言及・肯定的な語彙の使用<sup>2</sup>

ポライトネスの原理の中の謙遜の原則には (a) 自己への賞賛を最小限にせよとある。良好な人間関係を築くには、なるべく自己への賞賛は行わない方が好ましいのだが、以下の例はそれに反し、明示的に肯定的な語彙を用いて自己賞賛をしている例である。

- (3) ●●に太ったって言われて悲しい気持ちになったから、○○さんに電話

して絞り方聞いたった。プライベートで嫌なことあったし、スッキリするためにはやるぞー！！！！てか、〇〇さんに電話したら、おれ最近クラブでめっちゃモテるってマウンティングされた。こわっ

- (4) 強烈すぎて、どう対応していいかわからなかった話が「うちの息子は成績優秀なの。平均が10点（20点）超えてますからね！」とマウンティングされた。いや、フランス10点取らない中学校卒業資格もらえないから、

これらの例はただの自慢ともとれなくはないが、参与者Bが同じ目標に向かって努力をしていたり、同じ年の子供を持つ親という同じフィールドにいるという前提があるため、そこで格付けが起こり、マウンティング発話として見なされたのだと考えられる。参与者Aの発話が自己賞賛でとどまり、後続する発話がなければ、比較対象となる何かしらの前提がない限りはマウンティングとするのは少々強引かもしれない。

### 3.2.2 他者への否定的内容への言及・否定的な語彙の使用

是認の原則では (a) 他者への非難を最小限にせよとあるが、この原則から外れているのが (5)、(6) の例である。

- (5) あんまり化粧品の値段気にしてなかったけど、化粧品がプチプラばかりなんですねwってマウンティングされたから、高い化粧品は女子同士での殴り合いの武器なんだなあ
- (6) ところがそのファンたちは同時に行ったことは新規のプロレス観戦者を排除することでした。「やつらは浅い、わかってない、もう来ない方がいい、てか来るな！」俺たちは才能ある選ばれた特権階級なんだから、お前らみたいなニワカにはなれないんだよ！ってマウンティングですな

(5) は参与者Bの持っている化粧品が安いことを明示的に指摘している例である。たとえ参与者Aが化粧品の安さを自慢げに言っていたという前提があったとしても、他者からの否定的内容を含む言及はFTA<sup>3</sup>になる可能性のほうが

高い。また、笑いながらの言及ということから、参与者 A の使用している化粧品は安くはないということも想起される。

一方、(6) は第三者の発話がマウンティングになっていると判断した例であるが、否定語彙だけでなく、《非難》の形式を用いて相手へ攻撃しながら、自分の優位性を誇示している明示的マウンティングともいえるものである。

### 3.2.3 参与者 A が B よりも優位にあることが明らかな状況での報告要求

(7) 結婚指輪どこのー？ (@>-\_<-) と質問してくる女の左手薬指にハリーウィンストンがキラリ。自慢したいんだな (°▽°)

(8) 面接の待合室で、みんな内定持ってないんすか？俺5つ持ってるんですけど〜ってマウンティングされた。部屋から一瞬で笑顔が消えた。

(7) は参与者 B の指輪の価値が参与者 A のものよりも劣るとわかっている状況で、あえて《報告要求》をしてきたという例である。自分の指輪のほうが何十倍も高いという自負があり、その優位性をアピールするために《報告要求》という形を用いている。参与者 B は《報告要求》に対して《報告》で返さなければならないが、そこで返答すれば、その後、明示的なマウンティングを受けなければならない。ポジティブフェイス、ネガティブフェイスの両方を傷つけているため、このような発話は FTA の度合いがかなり強いと言えよう。

(8) は《報告要求》の後に自己賞賛を続けていることから、明示的に参与者 B の両フェイスを脅かすマウンティングとなっている。

### 3.2.5 参与者 B の好意に対しての不満

(9) 10年ぶりに会う友達に自分から会いに行って、海鮮居酒屋さん ♪ に入って「今日は奢るから何でも好きなものを食べてね」と言ったら、『私冷凍食品はダメなの ♪ 火がよく通っていないと美味しくないから食べない』と言って断られた (；\_；)

(10) 先日、ちょっといい和食店で食事をしていたら、隣席に座っていた男性4人組の50代男性が「うーん。誘ってもらったのにアレだけこの

店の料理、おいしくないね。この手の店なら、××とか○○のほうがはるかにうまい。まあ、あのあたりの店は普通の人は予約取れないからなあ……

(9) も (10) も 参与者 B の 好意 に対して 《感謝》 で 返答 を する の が 理想 的 で ある の に も か か わ ら ず、 相手 の 反感 を 買う よう な 《非難》 を 用い て いる。 参与者 B の 行為 に対して の 否定的 言及 で ある た め、 その 行動 の 労力 が ある 分、 FTA と して の 度合 い も 高い。(10) に 関し て は 否定的 語彙 を 用い た 後 に 「普通 の 人 は あ の 店 の 予約 が と れ ない」と さ ら に 追 い 討 ち を かけ る よう な マウンティング を し て いる。 こ の よう な 発話 が 続 く と、 マウンティング 発話 で ない と 考 え る ほ う が 困難 に な っ て く る。

### 3.2.6 ポライトネスな姿勢が見られるマウンティング

(11) 身長高い人なら分かってもらえると思うんですけど、身長低い子に「○○さんスタイル良くていいな～私なんてなんも届かないから男の子に助けてもらうしかなくて……」ってマウンティングされがちですよ？ それに「小学生みたいで可愛いと思うよ」って返すと大体一瞬相手が般若みたいな顔しません？

(12) 『ママ友に「いつも本当におしゃれでステキね」と言われましたが、そのとき着ていたのはユニクロ。「やだ、そんなことないわよ～これだっ てユニクロよ～」と返しました。すると、「そうなのー？ でもおしゃれなのね～。私はいつも高島屋で買うからユニクロ行ったことないのよ～」と言われました。後から「あれは自慢？」と気づきなんだかモヤモヤ』

(13) 「前髪似合うね！若くて小学生みたい！！」一言多い！！ なぜマウンティング女は、褒め言葉で止めておけないのでしょうか……なぜいらつとさせることを生き甲斐にしているのでしょうか……。

(11) ～ (13) は 言語形式としては「スタイルがいい」「おしゃれでステキ」「うらやましい」など、《賞賛》や《羨望》を用いているのだが、すべてマウンティ

ングとして受け取られたものである。是認の原則から考えると、(b) 他者への《賞賛》は最大限にしなければならない。しかしながら、(11)は「私なんて…」と《自己非難》の形式を用いながら、男の人に助けてもらえているという《自己賞賛》ともとれる発話で参与者Bにマウンティング意図をはのめかしている。(12)も同様、肯定的な評価語を用いているが、後続発話で「Bよりも高価格帯商品を買っている百貨店で衣服を購入している」という言わなくてもよい内容に言及している。(13)は参与者の年齢がどのくらいか不明ではあるが、成人女性が小学生みたいだと言われてほめられたとは思わないだろう。小学生から連想される幼さや女性的魅力の乏しさといった否定的な面が前景化した例である。

#### 4. まとめと考察

今回はTwitterやブログ、ドラマなどから用例を収集し、マウンティングになる発話の特徴を概観した。マウンティングで用いられる言語形式は様々であり、ポジティブポライトネスを犠牲にしても自身の優位性を示すことに重点を置いた威圧型のマウンティングから、見せかけの発話機能を用いてポライトな姿勢を見せつつ暗的に攻撃するものまで、その幅も広がった。自己への肯定的内容への言及や他者への否定的内容への言及といったシンプルなものもあれば、参与者Bにとってデリケートな話題であると知りながらあえてその話題に触れる、ポライトな言語行動が期待されている場面で最大限に賞賛を行わない、感謝表明の代わりに不満表明をする、賞賛発話の中で否定語彙を使用するなどの複雑なものもあった。これまで収集したデータを見る限りでは、マウンティングは絶対的上下関係よりも、相対的に規定された関係の中でよくあらわれる言語行動であると言える。

マウンティングの対象となるものには知識、経験、容姿、センス、恋愛・家庭、金銭面などに集約されており、いずれも自分が優位に立てるという自信がある対象にしか言及はされていないということも分かった。

#### 5. おわりに

本稿では、Twitter上でマウンティングと意図された、またはそう捉えられた発話を取り上げ、マウンティングという発話機能の特徴を探っていった。すべて網羅はできていないが、現段階で他の機能とは異なる特徴は見えてきた。今後はより多くのマウンティング発話を収集し、詳細な分析と分類を試みるつもりであ



る。性差や参加者の関係性でも大きくその言語行動は変わってくると考えているため、それらの点についても考慮しながら研究を進めていきたい。

#### 参考文献一覧

- 市川真未 (2017) 「ほめが失敗する要因とほめストラテジーについて」 創価大学大学院紀要 第38号
- 瀧波ユカリ・犬山紙子 (2014) 『女は笑顔で殴りあう:マウンティング女子の実態』筑摩書房
- 金庚芬 (2012) 『日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究』ひつじ書房
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』明治書院
- 山路奈保子 (2006) 「日本言語の「ほめ」についての一考察—「ほめ」を攻撃的に作用させる要因の分析—」日本語教育 130号
- Brown, P. & S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Culpeper, J (1996) "Towards an anatomy of impoliteness." *Journal of Pragmatics*. 25, 3, p.349-367
- Leech, G. (1983) *Principles of Pragmatics*: Longman (邦訳:池上嘉彦・河上誓訳 (1987) 『語用論』紀伊国屋書店)

#### (Endnotes)

- 1 出典の記載のないものはすべて Twitter の用例である。
- 2 「自己」というのは参加者 B だけでなく、参加者 B に関係のあることやもの、人も含める。
- 3 Brown & Levinson (1987) が提唱した、人間なら誰もが持っている面子つまりフェイスを脅かす行為 (Face threatening act: FTA) のこと。フェイスには「他者に理解されたい、認められたい、好かれたい、賞賛されたい」というプラス方向の欲求である「ポジティブフェイス」と「他者に邪魔されたくない、踏み込まれたくない」というマイナス方向の欲求である「ネガティブフェイス」という2つの側面があるとした。FTA にならないように配慮した言語行動を「ポライトネス」と呼んでいる。

(いちかわ・まみ, 創価大学日本語・日本文化教育センター助教)